

STAGE+を楽しむ(39)(HP 収載)

—ブラームスの室内楽—

1. 始めに

前報(38)に引き続き、STAGE+の東京春音楽祭におけるブラームスの室内楽の演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、東京春音楽祭におけるブラームスの室内楽の演奏を選びました。

ブラームスの室内楽 —リシエツキ&日本のソリストたち

東京・春・音楽祭 2023

収録日: 2023年4月5日

本映像は、円熟した演奏に磨きをかけ続けているピアニスト、ヤン・リシエツキと日本を代表するオーケストラ奏者たちが共演する室内楽の夕べです。毎年話題の「東京・春・音楽祭」の公演の一つで、ここではブラームスのピアノ四重奏曲第2番、弦楽五重奏曲を披露。前者ではリシエツキが音楽を牽引し、親密な対話とスケールの大きさを両立した音楽がお楽しみいただけるでしょう。後者では洗練された技法とブラームスの心を掴む旋律の美しさ、繊細なハーモニー変化を見事に捉えた弦楽アンサンブルの演奏に、圧倒されるに違いありません。

ソリスト:

ヤン・リシエツキ (ピアノ)、横溝耕一 (ヴィオラ)、向山佳絵子 (チェロ)、
水谷晃 (ヴァイオリン)、川本嘉子 (ヴィオラ)、矢部達哉 (ヴァイオリン)

曲目:

ヨハネス・ブラームス 弦楽五重奏曲第2番ト長調 op. 111

矢部達哉(ヴァイオリン)

水谷晃(ヴァイオリン)

川本嘉子(ヴィオラ)

横溝耕一(ヴィオラ)

向山佳絵子(チェロ)

ヨハネス・ブラームス ピアノ四重奏曲第2番イ長調 op. 26

ヤン・リシエツキ(ピアノ)

矢部達哉(ヴァイオリン)

川本嘉子(ヴィオラ)

向山佳絵子(チェロ)

ヨハネス・ブラームス ピアノ四重奏曲第1番ト短調 op. 25 第4楽章

ヤン・リシエツキ(ピアノ)

矢部達哉(ヴァイオリン)

川本嘉子(ヴィオラ)

向山佳絵子(チェロ)



本年4月5日東京文化会館小ホールでの演奏が、STAGE+でも公開されたわけです。

ブラームスの弦楽五重奏曲第2番ト長調は、日本人だけの演奏です。このブラームスの弦楽五重奏曲はあまり聴く機会がないのですが、ブラームスの室内楽らしい、内省的な地味な曲で緊張感あふれる演奏です。



ブラームスのピアノ四重奏曲第2番イ長調は、ブラームスらしいメランコリックなロマンチズムの趣のある曲で、リシエツキのピアノが、よく歌い、それに三つの弦が追随しています。

東京春音楽祭での配信は聴けなかったのですが、直接は比較できませんが、その後に LAN iSilencer を追加したりしていますので、ピアノの響きや弦の滑らかさは進歩しているように感じます。



ブラームスのピアノ四重奏曲第1番ト短調は、第4楽章のみのアンコール曲で、アップテンポでハンガリアンダンスを連想させるような、ピアノの速いパッセージに弦のピチカートやスターカットの奏法が合わせていました。

以上